

平成 30 年 7 月 3 日
特許庁

民間競争入札実施事業

「登録意匠と公知資料及び外国意匠公報資料のグルーピング事業」の実施状況
(平成 28 年度・平成 29 年度)

I 事業の概要

1. 業務内容

本事業は年々増加する意匠審査資料について、相互に密接な関係にある資料をグループ化することにより、審査時の調査効率を高め、迅速、かつ的確な意匠権設定を継続的に行うことを可能にするものである。審査資料として整備した「公知資料」及び「外国意匠公報資料」の中から、我が国で登録した登録意匠の実施品や改良品など、登録意匠と同一又は類似の意匠を抽出し、これらを、登録意匠を中心にグループ化（「実施物：登録意匠と権利者が同一で形態も同一の審査資料」、「バリエーション：登録意匠と権利者が別又は不明で形態が同一の審査資料」、「類似：登録意匠と権利者は不問で形態が類似の審査資料」の3つのレベル）できるか否かという調査を行い、その調査結果を納入するものである。

2. 期間

平成 28 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

3. 事業者

一般社団法人 日本デザイン保護協会

4. 事業者決定の経緯

平成 28 年 1 月に、入札参加者 1 者から提出された提案書について審査した結果、必須項目の基準を満たしており合格となった。その後、平成 28 年 2 月 12 日の開札において、入札価格が予定価格の範囲内であったため、総合評価方式に則り上記事業者が落札者となった。

II 確保されるべき質の達成状況、業務の実施状況及び評価

1. 業務の実施状況

(1) グルーピングレベルに該当する意匠の調査、関連情報の作成

平成 28 年度は、発注対象の各登録意匠に関する、「実施物」、「バリエーション」、「類似」のグルーピングレベルに該当する意匠の調査と関連情報の作成を、25,042 件行い、平成 29 年度は 24,665 件行った。

また、登録意匠に対して行われた、「実施物」、「バリエーション」、「類似」のグルーピングレベルの判断は確実なものであった。

(2) グルーピングレベルを付与した調査対象資料についての報告書の作成

調査対象資料に関し、「バリエーション」、「類似」のグルーピングレベルを付与した理由についての報告書が、平成28年4月から平成29年3月までの間に約4,200件作成され、また平成29年4月から平成30年3月までの間に約3,700件作成された。

また、納品された報告書は簡潔、かつ的確に要点がまとめられていた。

(3) 再納入

関連情報及び報告書の納入後、平成29年度の第2回の納入において3件の誤りがあったため、この3件について誤りを修正し、再度納入を行った。その他の回の納入においては、誤りはなかった。

(4) 事業スケジュール

特許庁の公表する意匠審査スケジュールに合わせた事業スケジュールが厳守された。

(5) 納入物確認結果

特許庁意匠課においては、事業者による納入物をチェックし、登録意匠に対して行われた「実施物」、「バリエーション」、「類似」のグルーピングレベルの判断が確実なものであることを確認した。また、「バリエーション」、「類似」のグルーピングレベルを付与した理由について、簡潔、かつ的確に記載された報告書の作成が行われ、事業の確実な実施が行われ、事業者に求められる水準に達していることを確認した。

2. 評価

事業者による成果物に確保されるべき質についてはすべて達成されており、三か月に一度の納入物の確認結果から、事業が確実に実施されていると評価できる。

III 実施経費の状況及び評価

1. 実施に要した経費

■市場化テスト第二期目

■平成29年度	単価 (税抜)	納品件数	合計金額
	2,550円	24,665件	62,895,750円
■平成28年度	単価 (税抜)	納品件数	合計金額
	2,550円	25,042件	63,857,100円

■従来経費（市場化テスト第一期目）

■平成27年度	単価（税抜）	納品件数	合計金額
	2,600円	26,427件	68,710,200円

■平成26年度	単価（税抜）	納品件数	合計金額
	2,600円	27,133件	70,545,800円

■平成25年度	単価（税抜）	納品件数	合計金額
	2,600円	24,957件	64,888,200円

■平成24年度（市場化テスト導入前）

	単価（税抜）	納品件数	合計金額
	3,480円	25,673件	89,342,040円

<経費削減状況>

契約単価（税抜）当たりの削減額は市場化テスト導入前の従来契約単価（税抜）と比べて930円となる。

平成28年度及び平成29年度合計調査件数49,707件×単価当たり削減額930円÷2=23,113,755円

すなわち、民間競争入札前の契約単価（平成24年度）と比較して、単年度当たり約23,113,755円の経費が削減されている。

2. 評価

経費削減額の評価については、納品件数が年度によって異なることから、税抜単価の比較により評価を行うこととする。市場化テスト導入前の従来税抜単価3,480円（平成24年度）と比較すると、平成28年度、平成29年度の税抜単価は2,550円であり、税抜単価として930円（▲26.7%）、単年度当たり23,113,755円の経費削減が図られており、効率的な業務運営がなされている。

IV 評価のまとめ

確保されるべき質についてはすべて達成しており、納入物確認結果からも事業が確実に実施されていると評価できる。

また、従来経費（平成24年度）より、税抜単価において930円（▲26.7%）、単年度当たり23,113,755円の削減が図られており、効率的な業務運営がなされている点が評価できる。

V 今後の事業

市場化テストの第2期目にあたり、事業は良好に実施されているが、1者応札であった。

本事業の説明会に参加したものの応札しなかった事業者に対してヒアリングを行ったところ、その理由としては「グルーピングの判断が困難である」との意見が多数を占めていた。そのため、この問題を改善して参入しやすい環境を整えるべく様々な取り組みを行った。

市場化テスト第1期目では、「本事業用に作成したグルーピング事例集を用いたグルーピング作業に特化した説明会の開催」、「落札した後に事業実施方法の研修を受けることができる仕組みの創設」、及び「評価項目の点数配分に関する組織の実績や経験が占める割合の軽減」を実施した。

市場化テスト第2期目では、第1期目の改善を維持しつつ、さらに「グループによる入札参加の承認」、「納期の変更（3か月に1回）による、グルーピングの判断作業の時間的な観点からの緩和」、「競争参加資格の緩和」等を行ったものの、市場化テスト第1期目、第2期目ともに1者応札となった。

本事業は、登録意匠と同一又は類似の意匠を審査用資料から抽出し、登録意匠とグループ化（グルーピング）することが根幹であり、グルーピングの判断作業を無くすことはできず、審査資料として使用する資料をグルーピングする作業であるためグルーピングの精度をさげることができない。また、事業を分割しても、グルーピングの判断作業は避けることができず根本的な解決にはならない。これらのことから受託可能な事業者が極めて、限定されている現状があらためて確認された。

このような状況ではあるが、今後とも、少しでも新規参入者が参入しやすい環境を醸成するために、「本事業用に作成したグルーピング事例集を用いたグルーピング作業に特化した説明会」を続け、入札説明会参加者に対するヒアリングを行い、事業の改善に努めてまいりたい。

(了)